

Message from the President

トップメッセージ

持続的な成長に向け、
一定の成果が見えた一年。
さらに変革を加速してまいります。



代表取締役社長 CEO

田中 孝雄

力強さに欠ける経済環境のなかで。

2014年度の世界経済は、米国では個人消費の底堅さにも支えられ堅調に推移した一方で、欧州経済はユーロ圏のデフレ懸念やギリシャ問題の再燃など不透明さに包まれていました。中国を始めとする新興国経済では景気減速が見られるなど、国と地域によって状況にバラツキがあり、全体としては景気拡大に力強さを欠くものでした。国内経済においては、上半期は消費税率引上げの

影響により景気の落込みが見られたものの、下半期以降は政府による経済政策や日銀による金融緩和策を背景に円安・株高基調が続き、輸出関連会社を中心に収益環境が好転するとともに、雇用の拡大と個人消費の持ち直しに加え、設備投資意欲に改善の兆しも見られるなど、緩やかに景気の回復が進みました。

売上高は過去最高。受注高は前年度に次ぐ高水準。

このような状況下、三井造船グループは連結通期業績は、売上高8,165億円、営業利益133億円、経常利益149億円、当期純利益95億円となりました。売上高は、子会社の三井海洋開発(株)が手掛ける浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備(FPSO)の建造工事や、エンジニアリング部門のプロジェクトが順調に推移したことなどから、期初予想を上回り過去最高となりました。営業利益、経常利益および当期純利益は、三井海洋開発(株)の増益やコスト改善に加え為替相場の円安基調などもありましたが、米国で建設中の化学プラント

にて工事損失が発生した影響により、期初予想を下回りました。このことを重く受け止め、今後は優良案件に絞り込んだ営業活動に加え、プロジェクトの見積、設計、調達および建設の各段階における審査機能強化などを実施し、工事損失の発生を予防します。

連結受注高は、期初予想8,700億円を898億円上回る9,598億円となり、過去最高となった前年度に次ぐ高水準となりました。売上高の先行指標である受注高を順調に積み上げられたことは、持続的な成長に向けての一定の成果であると考えます。

浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備(FPSO)

洋上で石油・ガスを生産し、生産した原油を設備内のタンクに貯蔵して、直接輸送タンカーへの積出を行う設備です。FPSOは浮体式の海洋石油・ガス生産設備の6割以上を占める最もポピュラーな生産設備。

2014年度 中期経営計画の進捗について。

2014年度 中期経営計画(以下、「14中計」)の基本方針のもと、バランスのとれた事業ポートフォリオの実現に向けて各種施策を実施しています。事業領域別では化学プラント、発電プラントおよび海洋資源の拡大を、ビジネスモデル別ではエンジニアリング事業および事業参画や周辺サービス

事業の拡大を志向しています。2014年度は三井海洋開発(株)の売上が寄与したこともあり、概ねこれらの方向性に沿った売上構成となりました。「14中計」の基本方針には3本の戦略の柱がありますが、その柱ごとに進捗をご紹介します。

「海運市況に左右されない
事業ポートフォリオ構築を目指して。」





「14中計の折り返し地点として、
進捗を確かめ、スピードをあげる。」

一つ目の柱、「製造事業の変革」の進捗。

戦略の柱の一つ目が「製造事業の変革」です。現在の中核事業である造船事業と船用エンジン事業については、製品競争力を高め、優位なポジションで事業運営できるように、製品の質的な変革に取り組んでいます。

造船においては次世代型省エネ船「neoシリーズ」のラインナップとして、大型のばら積み貨物船「neoケープ」を開発し、受注を果たしました。また、一般商船だけでなく、海洋構造物の建造にも、造船で培った技術を活かそうと、海底の油田から取り出した原油を洋上で処理、貯蔵するFPSOの建造にも取り組み、すでに千葉事業所にて建造、引き渡しを行っています。

船用エンジンにおいては、電子制御式ガスインジェクションディーゼルエンジン (ME-GI) を製造できる

会社としての地位を確立しています。天然ガスと重油の両方を燃料に使用できるME-GIを国内としては初となる液化天然ガス (LNG) 運搬船向けの主機関として受注し、エタンと重油を使用できるME-GI-Ethaneも世界で初めて受注しました。

強みとする省エネ・環境対応技術による差別化を進め、より付加価値の高い製品を生み出す国内開発・生産体制へのシフトを行っています。グローバル視点での最適生産体制の構築という点においては、プロセス機器事業で成果が出始めています。拡大する東南アジア市場の取り込みを図るため、ベトナムに合弁会社MES UBI Heavy Industries Co., Ltd.を設立し、生産を始めました。今後も運搬機事業で海外製造拠点の開拓を予定しています。

次世代型省エネ船「neoシリーズ」
当社のベストセラーである56,000トン型ハンディマックス・バルクキャリアー (三井56BC) の高い汎用性と信頼性を踏襲しながら、電子制御エンジンの採用に加え船体形状を最適化したエコシップタイプのバルクキャリアのラインナップ。56,000トン型、60,000トン型、66,000トン型の3船型を開発。

電子制御式ガスインジェクションディーゼルエンジン (ME-GI)
熱効率の高い大型2サイクル低速ディーゼルエンジンでありながら、使用燃料として天然ガス (LNG) および重油の両方を使用できる二元燃料 (Dual Fuel) 機関。

二つ目の柱、「エンジニアリング事業の拡大」。

戦略の柱の二つ目が「エンジニアリング事業の拡大」です。当社グループの強みであるプラントのエンジニアリング能力を、成長が期待される化学プラント、発電プラント、海洋開発分野に活かし、海運市場に左右されない事業ポートフォリオを実現し、収益の安定化を図っています。

化学プラントでは、米国のSasol North America, Incの低密度ポリエチレンプラントの設計業務を受注するなどの成果が出ています。

国内では再生可能エネルギーの固定価格買取制度の施行により拡大している需要を捉え、発電事業の伸長に取り組むなかで、子会社の三井造船環境

エンジニアリング (株) が、事業系生ゴミのバイオガス発電と飼料化のハイブリッドプラントを受注しました。海外では、デンマーク子会社のBurmeister & Wain Scandinavian Contractor A/Sが、事業開発を伴うEPC (設計・調達・建設) 案件として英国向けのバイオマス発電を2件受注しました。風力発電も含め、再生可能エネルギー分野はさらに拡大してまいります。

当社グループのプラント子会社間の相互連携も進み、人材交流、業務連携、共同受注の成果もあがってきました。さらにグループ全体で総合エンジニアリング能力の追求を行っています。

三つ目の柱、「事業参画・周辺サービス事業の拡大」。

戦略の柱の三つ目が「事業参画・周辺サービス事業の拡大」です。従来は完成した製品、プラントを売るという売り切り型が当社のビジネスモデルでしたが、アフターサービスや運転保守、事業運営への参画も加え、製品ライフサイクルをトータルでサポートする複合的なビジネスモデルへの変革を進めています。

2013年10月にシンガポールに設立した子会社のMitsui Engineering & Shipbuilding Asia Pte.Ltd.では、石油化学プラント関連の既存顧客からアフターサービス案件を受注するなど、順調なスタートを切りました。既設プラントの修理、改造に対応することで、ライフサイクルエンジニアリングサービスを伸ばしていきます。また、今後は他社の建設したプラントへのアフターサービス事業の展開も含め、

業容の拡大を図ります。

アフターサービス全般を担うテクノ事業においては、トルコ、カタールにも営業拠点を開設しました。プラントに納品した圧縮機等のアフターサービスの成長を目指しています。

当社が事業に参画するプロジェクトも動き出しています。北海道の別海町では、町と共同で特別目的会社を設立し、国内最大規模のバイオガス発電事業をスタートさせます。約11万頭の乳牛を飼養する日本一酪農が盛んな町で、家畜排せつ物によるガス発電を行うべく、現在、バイオガスプラントを建設中です。今後も各地で活発化する電源確保のニーズに対し、積極的に技術提案を進めてまいります。

ライフサイクルエンジニアリングサービス

EPC (設計・調達・建設) だけでなくメンテナンス・アフターサービスを通して、製品のプランニングから解体まで、ライフサイクルの全体を対象とするエンジニアリングサービス。

さらなる三井海洋開発 (株) との連携。

近年の当社グループ全体における三井海洋開発 (株) の売上および受注高の割合はおよそ40%であり、同社は当社グループの業績に大きく影響を与える存在です。原油価格が下落している状況では海洋資源の新規開発案件への関心は低くなりますが、一定の原油価格が維持されれば、現在稼働中のFPSOのチャーター事業やO&M (運用管理・保守)

事業での利益が確保されます。また長期的には日本のレアアースやメタンハイドレードなどの開発に、同社の技術を活用できると考えています。同社とのシナジーとして、すでに当社はFPSOの船体部の建造や船上の原油生産プラントである**トップサイド**のエンジニアリングを進めており、人材交流も含め、さらに連携を進めてまいります。

トップサイド

FPSOに搭載される石油・ガスの生産設備です。船のTopside (甲板上) に置かれ、海底の井戸元から生産される原油をオイルとガスと水に分ける設備。

これからの100年の、社会の礎を築く。

エネルギー、資源、環境など、私たちが注力している領域はいずれも世界が直面している課題そのものです。「14中計」のスローガンである「新たな100年の礎を築く」は、私たち自身の事業の礎を築くというだけでなく、これから100年の社会の礎を築こうというものです。次世代のために果たすべき

責任であり、私たちの使命です。事業を通じて、お客様とともに、次代の社会づくりに貢献していきたいと考えています。今まで以上に社会になくはない三井造船へ。見定めている方向へ、グループ全員が一丸となって、さらにスピードをあげ、進んでまいります。

「グループ全員で、
同じ目標に向かって。」

